
美と宗教

タケノコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

美と宗教

【Nコード】

N3481I

【作者名】

タケノコ

【あらすじ】

ある国。そこには宗教に大変熱心な王様がいました。ある日、その王様が神の像のご意思を政策に反映させると言い出して……

(前書き)

通勤、通学の間にどうぞ。？エンド（バットORハッピーか謎）の
短いお話です。

ここは、ある王国。この国の王様は、大変に熱心な宗教家であった。

ある日、この国の王様は――

「神の像を玉座に座らせ第一は神とする。そして自分がその神像に参拝している時に浮かんだ政策を実施する」

と議会中に発言した。

その、話を聞いた重臣達は激しく反対したが、あいかなわず実行に移されるはこびとなった。

・

王は像に祈った。

（神よ！今月は、どのような政策を実行すればよいでしょうか？…
：『あなたが見て美人な女性には月々、国庫より裕福に暮らせるよう援助金を出しなさい』……はい！）

それ以来、国では王様に美人と認定された女性には、国よりお金が出された。

その王様の女性の好みはスレンダーな体型で美しく瞳が大きな女性だった。

・

またある時王様は、像に祈った。

（神よ！今回はいかな政策を？……『美人の女性からは税金をとる

のを禁止しなさい』……はい！)

・
・
・
・

何百回と浮かぶ、美女達に対する優遇な政策に王様は――
「神さまは、美女が好きに違いない」

そう、千百五人目の側室に王様は話して聞かせた。

～おしまい～

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3481i/>

美と宗教

2010年10月12日06時29分発行